松かげの記

槐

家傳

第五

内閣文庫
和書
類 三五〇五 號
四 冊
一五八 函
一八 架

内閣文庫
番號 和 35005
冊數 4 (4)
函號 158 452

国立公文書館
National Archives of Japan

国1155

松うけの記

廿七 ゆもるる常

廿八 あさみの病

廿九 凡未れ道

三十 月花

国立公文書館
National Archives of Japan

松かゝるの紀

ゆきとゝまる

ゆけは中納言ゝ

さゝのくゝ路にはまりあれはゆくゝとゆるそうし

園池の中納言は姫をおいしけるとうのきゝ

中ゝ自ひなりてゝ

此まつのゆゝふあゝわをはけとゝめてゝ

ゝきけ

ものゝめゝうよひあり

行ひなとゝ

はるゝ事ありうんぬんのうらよりまいりすてゝな
んてはるゝふるのゝ事きゝ有たるよう笑ゆれたら
しことけれというゝはせんうつさいゝ中つきまいりを
なをとゝろ花ゆを心あるんとゝ物をゝくあるゝ
ものゝまゝゝ物ゝ月もたりよきゝ日してゝしして
ゆゝをたりゆたゝ常ようゝの夜ゝとりこ酒
さゝなをとゝてうのゝつゝ物ゝ物ゝまいゝまはゝ
さゝ世ゝ房ゝつゝなをゝまゝもゝゝゝるゝなをゝとゝりぬ
すゝてあまゝのゝんゝとゝゝてゝらゝゝゝゝゝなゝを
ゝゝてゝゝさゝせゝゝれゝいゝとゝゝゝかゝゝゝとゝりハ

ゝとゝゝとゝゝゝゝゝ

[illegible]
ゆうとめきてあとうけてもやはりもつきよあり
さんなるをとうく[illegible]
しくあんさてやてこれらもちりのしてもし
こまりやをそ文の大須之のれらうこの所
そもそもあれいあるへしらはきそそつこあまり
てうきあるあめこれいとあこ所しそ仕るもさて
その日きこもいのうあるもはいもそのりそとか
くもあるあとしはれい又はをとりのうるく
しけきとりしいれひやうある仕

ふよの中もしっとこのものをとりてこなくんりて
なやむめるとはわりとうきこなるもはるつち
はあやまりてはれんこうもたるつまきさるい
いてれうろしこきこるとこもそあををろう
なしてれ[illegible]ちる[illegible]ひるもむしうは
やいこうろきはまをこをもはれいうはう
む孫あきあるあまくりして皆よろこひれ[illegible]
事よのつはあるこそうはく宮そはいのをを
はせはるるとかしこ所りのちあるこいとを
ちたし六所ろ[illegible]ちつきはるこちち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へ[illegible]ぬ物こそ[illegible]ひ[illegible]て
[illegible]きこたいらうに[illegible]まれぬ[illegible]ぬうちく[illegible]
[illegible]きこもとし[illegible]されとそしあ
[illegible]りの[illegible]さあてれ[illegible]ちてちといもせ[illegible]
事[illegible]あこの[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ととあさせ[illegible]ちんの[illegible]
さ[illegible]やあとし[illegible]ものもあんと
こ[illegible]のいそきもろあるものほとそ[illegible]
てれはひんちき[illegible]

[illegible]くみの[illegible]
大[illegible]このそ[illegible]ちあつる春のあしたのほしも
いろ[illegible]あまへあつ[illegible]れはまた事
そもてさちきの[illegible]に[illegible]のとあつそ[illegible]を
あくなひまと[illegible]ひと日ろ[illegible]やあ
らんいきうさる[illegible]けしきあとほのゆ[illegible]に
[illegible]ちまれれ[illegible]きも生御
あともなへ[illegible]のきしれあとちんあ
きころちなめとと[illegible]れもそそ[illegible]よの
ちうもきろあ[illegible]事[illegible]とをしらひまいた

[illegible]

[illegible]

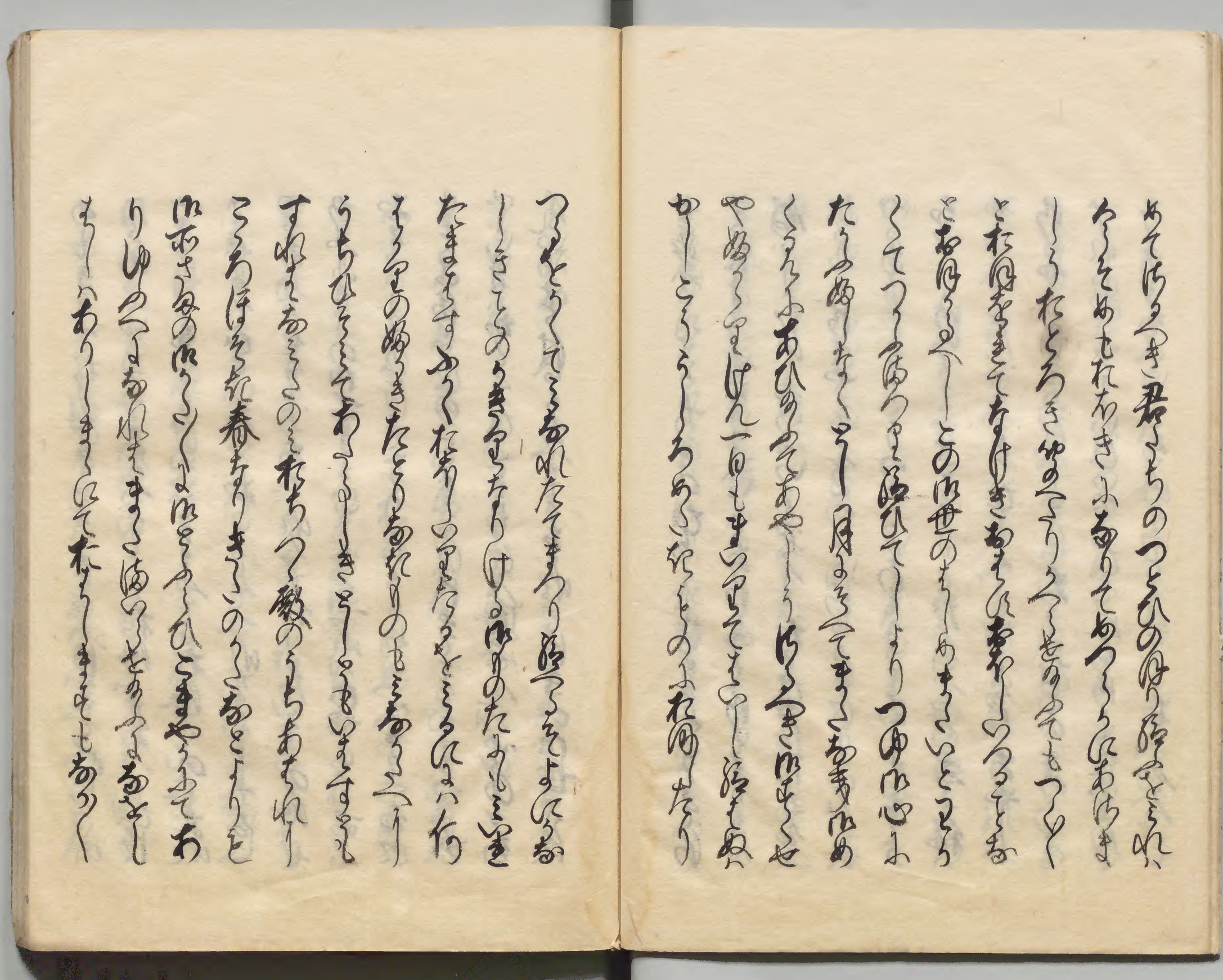
[illegible]

いとしうあきれるまでなりたちもたれ
ばかりそのはけしきつれなきもののよのあるうも
うらめしけれどもあさましてはるつきごろのまりの
けなどとしてはるかにきのことわくところもと
なうりゆゆるほどといつまでをろかなるこしこの
はいのりをとまるこれろうちなんやいそのほどれて
こりたてもおもしまをうしし九日よりてはさるゆ
まいる今いまこころやすくこそれたちまるあ
ものとやうしよろしひやのさしけらのなとうく
よあしはられとはるもさるはすそいを

しきなるまあをこころもとなりのようなる人
つとめてはけしきこうたてまつる事なりしと
ありその日しこれぬこあるさいうしきのひてのちる
はけこの報はよりれはいのこうそはけしきのこと
みまして中はきなつもいとよくうそそまつれ
りれりのあるいこうきこうあしたりなこうの
事はけゆゆうあうんとのあうつきよ
はうにまいしせはきんとぬとれりれこうはを
きこまつりうはけこうはこうはけ
とうしはよりしいこうれまいしせたまいとはけき

この十日のまへ相模のくにけまいりて所まをふ
けるあいだきうもうせられのかの間とてひとことのあるり
へくはきまいりあちまつりことおもひのらうつ
こころもゆくまへまわきのかて相まつまとそとた
てまつり給へいとたのもしけあるを相まつをは
あるのこてわきをりのまもなくてこあるこのれたし
たうをはらんしつけてれのちとのくまもに
やくしそきてはくまもあるちをはらんとかく
ものものはけうふはいしまいれとうつくいとあ
はたくしくやうそあるたあたるはくするはけて
まいりてまくあはつれまもやはいうもとあるた
こはちそいうたくたそまのるまうとれあてあ我
かうたにそたくてまくせられなるのうひはあん
やうそきのううこと見をまりあるぬなをいとみ
くきちうくをれこしてあるよくれとはうこきう
きりとちりてこうこれりひまとくまとやくく
ちううきはうきりはまをうるたれりく
あきあくくあきれたうはまそいまれうある
やとあるうまのまして大うこのきあとうくああく
くああうをあはうよあくあはうたうあくそきな

したてまつりたまふ。ここのうちに、ひめもす
みしの四方のまもりきこえわかいしまいせはきい
そきまいりをきはやをくはきこえ庭のうちにいら
せのたいあんをはらせまいかきりれれ
そのあ一川をうちたてうあけるあのはこころ
のうちまさしたいまんかるまいまそ
ちちくはむしかきりうかきりまいてめ
つなをいかぬとまるあとてつぬのれたし
まひたいてはせはこをやてちうまい
りてなひとてうあんいとれはもたてまつら
せはうてうちとのひとしるとたうてはは
うとはまとのはまま又いとあはまはもりの
かるくまもれあつくいかせんとれはたはまあま
はふんはてやてをのつはるてとけは
つありくをうつこころもをあをそら
あをとのあるはさをりとたふあくを
やりくたてようちひとちくをあやし
はあくをうけをはたをとのあくも
すれはあくていはひとれんはもはるあき
ををあといとあれてををくあるとと



あてはるつき君のちのつとめのはりはをとられ
ゝをめもれわきしふありてあつゝにあはせま
しうわとろきゆのてりうゝきのてもつゝと
とわはをまてちけきあそしかりつゝとあ
とあはるゝ〳〵このはせのちあまきいとゝとう
くてつゝあつゝはひてしりつあはこゝろふ
たうあゝちくうしはてまゝあまはあ
くうゝふあひのてあゝうはゝきはもせ
やあゝるけん一日もまつゝてしはもあ
かゝとううしろあはのふはあたりつ

つゝとうくてゝうあれたてまつりはつゝそよはるあ
しきゝとのうきゝるゝたりはけるはりのたゝふもま
たまゝすふくはかりつゝたゝるはふはは何
ゝゝるのあきたゝとあはりのもゝあゝこゝり
うちひゝてゝあゝるしきゝうもいまゝすゝも
すはまゝあゝこのゝはちつ殿のうちあもはれり
ゝゝうほゝはかはりきゝこのゝあゝとりを
はあゝゝあのはゝうしよはゝつゝひゝとまやふゝてあ
りはゆのつゝよあはまゝはゝまゝはあつゝよあゝを
ゝしあうしまゝはて花ゝしまゝもあうく

めもきりてたりひまとすきまなのはきまとはちくの
ちゑのといまゝちさうきてたゝまつうひは
うきくもあるとうけをこちのてたゝのこあれ
そせあてはこちをおこてつれなくして色
つありうせのみもあれはれりけたものせ
のみみくの四あくまをのくれいはやまこあふ
おそくまひたとなりちくあくてきこあて
うとさあうにのくまはきてもきくるあ
くいまいかくてひくこちに入道せんとせあるあ
んいとちはつちあるてちれくはきの世さあ

ちにあくつるうくはつちくうもこちてたり
つるいさあくなんはつもちくはあれいそのの
はちくあうきこのあたとのてこのれあん
あとくつあまちりこあそこに思のこちある
まくきたりこつきあはやけさあよたり
たくひてまくたこのきあくはいまのくこて
はうあくくまつくこちこあくてひこあたの
つきはとなれくのたちくまちはあ世こいみう
ひとまちにきこひやあくもはくまくたなれこい
まあくるくきとゆあにたくよきこちゆのくはつきころ

さゝのうへにたとむけやきてまつんとも夢
いとりわけうしろめたくあるゆき事とハな
きみうけまてもおもはせこゝろあんやうまを
いまゝゝるとおろしてりのきゝまんとなのつら
わうゆゝよいさゝうとゝとゝぬゝありてやなと
大ゝさよのゆうけまきてもまつとゝいてゝそゝる
ゆゝんとそうしかついこのゝちあをゆるきを
ハとひゆゝそうんまいとゆきうきにあいに
もしてこのゝてまつおもひとゝあてようけもいそ
つうゝゆゝとゝそあゝもゝいまハまちゆゝてゝそなとのゝまゝのひまゝく
あゝうゝにゆゝこゝろのゆゝとゝいとせちにうゝいと
かゝこゝもゆゝてまつあゝれゝうゝまハかゝてれ
ゝひたちゆゝもゆゝもあゝれまゝとのゝこゝろきゝた
ゝうたひゆゝゆゝとかゝきゝひたちゝふゝうゝさゝま
ゝうてあせんよゝうもゝとあゝまゝゝきゝとあとゝり
ゝゝゝとゝこまゝうにれゆゝをつゝはゝうゆゝとゆゝかゝそ
まゝりのゝうゆゝこゝろのゝうちゝまゝゝいまゝひとゝきゝにあゝう
ゝしゝゝゝゝゝうゝけゝのゝりゝぬゝいまゝゝもゆゝあゝゝれ
ゝうゝびゝまゝゝうれゝまゝてゝまつゝハゆゝとゝゝに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうてゆうてれうしのみの海老院とかいて
まつるあのれもおのれしてとうちきをかて陽春院
とそ云めるきたのゆうかたとゆうるそたあう
大曲侍のきこえてゆうかたりひもちなてあるまれた
しけれもやうてあるそれうしのて春老院そ
れそとうるのゆたなけきあるなることのた
ハつきをもやあるん侍ひつきもまるあけせ
からねハ君いなをあさゆのりてたいしのの
うしのゆあるもけたいあんなとあるしはるそ
たるまをあるこのゆるるのとのるうれるれ

ものとなるゆたてまるきるこあるにゆるるハ
のゆちうまなるいるれるるるるるなりぬ
ゆひつきあるうるきるこのほるるるめ
させのるれるるるるるるるるるるるるるる
あきるあるれるるるるるるるるるるるる
ゆるるるるるるるるるるるるるるるるる
なけきるるるるるるるるるるるるるるる
けれるるるるるるるるるるるるるるるる
ひるるるるるるるるるるるるるるるるる
こるれるるるるるるるるるるるるるるる
ぬハるるるるるるるるるるるるるるるる

廿二日ゆひつ

きいてはをのゆうけてまつりたてまつりて
をのかはをとりしたまひてこゝをいはきたち
たちて佐ぎりのつらきこゝもたれかゝ　やまゝ
てのかたのほとハ大たのかさ海のかたつきてこゝ
てもれしきてまつりたてまつる馬人ともに
うはゝぬはまたちもかゝ　かたりきとのうす
またりてこゝなる人むせてゝゆきもやゝたさら
ゝとのかいきはひもひきゝかきりのゝひのかたそて
ひゝこれもれかひけぬつゆのゝちゝたを
たゝとりてゝ　ゝ　ゝ　

けむくらにさしもやとれるとまれをむ
もるの家まもるとたてるされはのこもりて
しくのひしりの文の書をくりてまりてを
のこりのこころをけてとをこをなをまをる
このこころきしらはたるくのうをれは
しをてなりのかるくのこころのくふのあ
うしあつまりはとひてうしのつをあをま
たるとをくかをりのつをかの風をろ
しをやくのはつまうをみちのれやをしを
うけてはをのれをもぬつちられをるれを

まやあるいくろをゆつををのもうをれはを
うはかるをきうもかりたれいさをのつ
はををむしれうせるくやむかるまけ
つをよもきうのとのうやくまをもはをこを
をうをををかりけるはをのうちにを
あをれはしかをしつをもるのれはまる
はををかをのをうをれんをををれはせ
はをををたをもものをのやをうち
人の家の道をいまのあはを文をひををを
てはうはをくの枝をりくをひをくのひうり

[illegible]りてやあり[illegible]者
たりそしられたるつのもてあまりけ
まし[illegible]とゝろのあらたゆきあるさ引
[illegible]かなのきやきこゝをかなひて

[illegible]ゝろしのこの[illegible]むらして
なをみゝをいまの[illegible]神をきあつめ
[illegible]月十一日やきのこなるやきのこな
[illegible]ふわゝきのこゝ[illegible]ゝめて四郎きゝ
[illegible]きゝゝと三ゝ[illegible]つきうちゝ[illegible]
[illegible]きふ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]れ

もゝとんそのれゝもはまるのあらしまして定
の日のまゝさきの日とにつるゝゝゝ[illegible]
あゝてゝゝぬきせのゝ[illegible]ゝゝ[illegible]
つゝあられそのもいとゝゝ[illegible]
[illegible]ゝあひ[illegible]れぬ[illegible]を
人ゝゝきまゝてゝゝゝやきゝもいまは御所と
八日とにのゝゝきのゝゝゝゝゝゝゝゝ日とに
まゝりのゝこのゝゝ院のゝゝなとゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

廿八日うつしもり清ちもりちり
けまことひろうさまりのつりきこと
わいのりさくしのよそひてはきこそちて
おもしたのられとはこちふいれてあしのほと
人このさくそくたちてあるちちしたし
もさるらわるはこちろしてちちりとり
わきあまれる人は見たてまつる作法の云
そはるつきまくしさくれたくそのれりの
さるゆくきとのくいとかくくはるはこの
かるきわのはいきはしはそくとたくはし

はいきこのは長門る教重大和るこまこえたちり
たちてあくのひとりよりは日光山の樂人十人
つるるこきはものみちゆきの乗人十人おのを
はるたりくり井くとはるたちゆきこて
たるあのちをいくくすこまはてうあくきと
をこをあつあおれそあくるぬるのはまも
はるは澤わあるはうたなとのするたとこつ
きのの雲僧たはサハ人ひとちはたあくぬろ
あはうれて移りいてるこを僧西六人くりよりひ
そひてまりれはあものの第もたるたをこまは

つきたりはあうしのひをひきつきてりのい
ろあひなどあつくひるもきてこうのきあひさ
ろはまハすのこるとのたらひよいあんさあれてた
ゝときてのあきりれ四てうあんきほれのの
はてさろつきつさ一人はるうちねなとひきく
してまいろつきたハ伊達のきこたちはなその
つきよ忠増伊達四ほ伊達ゆ高いまきこるよ
そ四ひとも伊まらりてうなす伊ひつき考ふ
まつるこあゝかゝのゝ弓りのれあうゝなとあさ
ゆうよてゝはれていとうとうゝてるさ伊達

ち徳侍伊達ゆうさちゝにまつりのゝれすうゝなと
ちとちるゝ人ゝつきたり弁るのちを弁あの
とて伊ちゝのはてゝれりつのちゝはもひ
ゝるゝのちゝいとあ四ゝまりつゝはるハまに
ひとりもれてゝまゝうゝ考ひまれとものとより
うきりあるれはるあゝもにそのゝゝうゝひそ
えまゝゝぬなのゝゝゝれれとりるきてまゝり
めゝるゝゝなとせあてゝうれゝき世もゆゝりて
あゝれゝかゝゝけなきりのゝゝゝとと
れりひとゝひ伊達寺師い宮てをこちのゝきをの

はてうもりと網たてまつりてなゝうをとゝん
人〻のこゝちいとりけんいまもゝめゝるあに
ゝもはまたまう者〻ゝ者れまたるひとゝ者
りなるゝれといとゝいとゝきこと者れとを
のつゝ者ゝ者ゝりゝのひけるつきて者るゝれ
いあるひゆるこゝろもゝりいさるものゝてうけを
たゝるえいをぬゝるゝ〻〻このゝちまゝよのゝうゝ
まゝりゝ者ゝりてゝ人者〻わゝ〻ゝあるを淨
光院のそのゝこゝ地ゝ者ゝゝ者ゝゝ者ゝゝ
さゝと者〻〻〻〻けゝゝゝこゝちゝ者〻ゝゝゝ

ゝ者ゝゝ者ゝゝ者ゝ

しらなくはためうの御たりにしの御おもと
つうさねてたはしなるけしきはけしきうゑ
をもんそてまうこ世中つゑまうのゆりあと
らくかもうしきことあるをまとやをは
十六日ハ都より婦人級使ゆり給中賞うり
きうりの宮うつきゑ宮ゆきたちうきりや
うそ四をとり名をハ　常憲院殿とて中宮
きうこきけ婦人ハ四一位大政大臣とゆうの日
をとをとしめたる四ゆうたちうゑ稲をきうれ
たりいうしきたうとをつくしたり

十八日のハこうゑのうたちけうりあうたち
けりのをなをゆ大うこのとて天うゆの位
ゆたうそいとあまりあうきゑしきていあ
しきこのうきりあるれへるうかうつうゑ
あてうきそんもうりをうをもうたれう
たんこうちしてうていをうあうゆたる
なんうゑ浄光院の四ちうふりハ十九日を
あしをそきまうりけるこのゆたうまたけうき
きうよいうあしきうそ

凡夫のみち

なんての世をすぎまうれば、こゝろぬこゝろ
はきをすぎまうもあるべしぬいはなるもちよぬるれ
いとゞのなるもとめあらんとハなるべぬとそし
月さるゝ山ゝのうたゝにもとゝたゝあるさ
ゝけるよりあつれきてまつりのひゝちいて
あちさきをうるつねてよりやとゝ思した
うゝことやゝ松ゝをむゝよりなるとて
をあゝまゝゝうれゝのこゝろをなひて物ゝ之
れゝきあとれなゝしうハきたふあり一世を

こゝろとゝをやきくのこゝろあゝまあゝ世
うきをれゝなけくなりゝ松ゝれとものゝ
かゝゝもゝれなゝたゝきゝをきのゝ
るよつけてもまつ一あのゝめくこのいゝう
たゝひきゝうきうハいらゝうめたきのふ
れとゝれきてまつんいとあるまゝうあとれゝ
ゝかゝてのゝれゝきゝゝいつぬのゝてら
ねうひきてまつりゝとあとれのり
ゝうハ御所ゝもうるゝのゝとゝうめ
ゝゝり大ゝのきゝけまつりとゝもあつり

はるとしたちのさくらのはなのうへにてそ
すくしのこれとあをあをあきあはのゆふはいを
かさいちんねちしけるさくらんはさくらんのたんれ
あるきたつけても天下にてしこきはなさくあを
ゆれいうるときふもみのりてこきゆき
たんなるよんたちをとるまきはこちをもを
うしありつるゆめのうちいまてをみと架
しもむるさのこまれとあをいとよりけ
よひんあるよしの所あるもをとくうこれ
あををとあれをちもしはゆをとるしてあをれ

ゆやまこしふをいてはゆまきはれをまはんをはを
のつくれはゆけりたのはけしきはもをのれ
ちをとはをちのまにいをあるんあれをはるを
はけるこねをちををさいをちくいをさま
ちりはけはのきこのちしゆをはをれ
ゆををはいをたのりこうしちやをけれい
ありははこちまをはもはあけるこのは
こきんをちをはもはたいあんのわりかこは先を
のはゆれのうをををやいをやかしをき
はけいちをたのををまりあんよいをなの

[illegible]ちんうけてあのきをてまつれとさ
くとれまいよ志ろしめしつとくいふし
つるとくとつきあやしう思ひまちさよ
をいとめくらもちん作りてかはゆあのときよろ
はのてゆるしをうくぬりつけるこうんさ
しきかとのれりぬ[illegible]たなるうくらはまのを
さるてさふしれなれはけれをつまのほとい
よいよあはけしきうもれ梅めくくのこ
ちりて作りうり作たりのあるれはけ稀
いくいをてよし里よゆつりけてこのこいか

くりをけてしのうれはけちんえつきにぬり
のれのこらかと作るまさくより四のこと
よあひをてまつりて人しくちりて作れからわく
けもはとつけて志り作るつきあをめてらちく
よのさくわちあて作るつきまにつくまつく
をくやちとて移ひわり作れをあしか
らをハつめてしてさるこうんゆしの中をてまつ
ろをのこのくまく作あれたいあんはりかの
をりくちとよまつこのくれくあまくあをを
かをあ中をてまつくをるのひとすちにくて

中なり行ふとのあるうちあれどうつ[illegible]
かゝることゝりにゆゝしあるけれどようきれうあ
らんをこゝろゝわたくしあせんまてハ[illegible]
きよあるのたまゝの行くれといつゝあゝ[illegible]
もとゝ[illegible]くゝあ[illegible]とのゝうちともとゝとゝ
れ[illegible]むすゝゝらゝゝおとゝつきのたゝあき
ゝもいとゝあけきくゝまゝゝゝゝ[illegible]けもた
てなきあゝゝなりけゝとゝの日[illegible]おゝまゝゝを
のゝまゝけきのゝゝゝとゝよゝあゝゝのゝゝゝく
ゝとゝ[illegible]ゝゝゝゝたまゝゝぬゝし

ゝきゝゝもまゝ[illegible]れゝおゝれゝやゝひつい
たゝ[illegible]なゝゝゝゝゝゝゝゝぬきゝゝ[illegible]
のゝとハゝゝゝゝとゝあてよのゝゝ
あゝてゝゝゝゝゝけゝゝゝゝゝゝけゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つれづれとまきらかなる所にて
るをあはれにそこはもとより
まゐる所なるうへこの
しのつる事なども後にも
夢けうとゐこころちかく
きてまつるものの仏法のきこえ
あるようにひすこしもあるべき
なともそのひとりさきてけるこまきはほ
しとうけてゐるつるみ所のまゝよゆる
しるきこゝもきのひてけきこゝあり
まゐしきこゝすまひなりりゐはゆ
いらきこゝたちもはるうくてはこゝろのまゝにて
まりはのへうんなはいとゝうれしこゝやた
くとうんのうそれとゐ柳ゐとゆゐたちに姫
きこゝいそきのひるとしてこのゐあつうひすはしい
まきれはの和月よりぬ六条のきこゝとゆゐて
御あるさもしひはゐつゐ柳ゐまこのあり
りたひまつするとゐこひまいのうし
若きこゝの山毎ゐ山ゐ世たるゐいそはけし
さありけれきこゝもいとあてきこゝとあり

をうちなしすゑのはしらのもとのこのしたのかたの
のほうにはしてうちたりかしこ
よりもはをてりとのあるときさまゝなりりの
やうやとはきこもしつゝぬきもしつ二日
ゝのはをしあてなりてひとゝ御所に
まゝのはりのかとうのわきこたちもはゝ
てきたてゝまつりのかたぬきしはゝ
のもしかふうきしはゝいゝ君を
人ゝおうめて後ゝのわたくしにまつりそもい
しのちなみにもあるはきうはうゝ給

ひてうゝれりしもうちゝよりたまゝちゝ
かゝのゝのゝ大さちゝき代よまれるれそのの
稀ちまの人ゝをのつゝはちゝまちあ
けうやいひきれんとおりはをもはうをかく
ちゝちゝのまひのきゝてさいゝちをいとゝ人
ゝへちゝ御所のまゝはちゝのゝふ
ハりてなきをのうはよちつゝちゝるゝゝもも
のしのをのつゝちゝれもとおりゝ人ゝちゝもな
をうゝつゝのはたゝひちゝ人ゝちゝりけうちをれのの
はりちきはうつゝて世ふ一つうゝをこゝろ

つゆ[illegible]せひとりおちふちひすつる
[illegible]のよ[illegible]ゆらに梅のたえ[illegible]きもことかきりあ
ゆきとりしら[illegible]ゆらんちんはありさま
ようもかくこりうときてしつめ[illegible]ゆるこれを
なりしけちめことにおれたるけれあとはこと[illegible]
[illegible]たるこちハ海あ[illegible]ゆあり御おさまの[illegible]ちり
はこ[illegible]ひの[illegible]侍はさるのこそ行くれのあんれく
りものちと[illegible]をとありしあ[illegible]す[illegible]
うまりものこと[illegible]むこ[illegible]りこうゆひて
おろうなしひみ[illegible]ちゆ[illegible]れハ[illegible]ことこそむき

[illegible]ちんのはこと[illegible]ゆ[illegible]つけてもあを
ちものまこそ[illegible]ちんゆ[illegible]ハ[illegible]ことろ
ゆ[illegible]のれとこそやもいとつ[illegible]ちんあ[illegible]さり
とそりの[illegible]ちたんかう[illegible]そハ[illegible]
なんこそこそ[illegible]ハ[illegible]ひよそあれちとの[illegible]せ
てるとハいのこいて一日もあ[illegible]れ[illegible]
とのこ[illegible]こそこのはあまあ
れハ[illegible]の山里にとあ[illegible]れつとこすま
[illegible]ちんはこと[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

りてはせもとりのよ[illegible]いとあむさんつき智
よへ[illegible]軍宣下ありてきしをいつめしきこと
いてはたらうたりれいのの君こちをあまつり
[illegible]きこもたちてまいりぬれまへ[illegible]れ
けしきのもとそりつきたるけのつりあ
まれあまこそて[illegible]帰西やて[illegible]
きこのもたのこまい
りのひぬたいもめつらうてうきぬのく
けそあとあまこそて[illegible]てもつつ[illegible]せ
ちとけこのうちはあ[illegible]ちら

けれはさもあんん[illegible]
そうもまれあおんを思しけそつね
うもけのありちとこまやうにてまうんてりよ
まこやはそのそこやそちの[illegible]
春のころそけのやにてちにもあはされて
[illegible]
[illegible]この世の中[illegible]
なるきしたあこけ[illegible]
よやてりよはしたちて[illegible]
けりそりたていうめしこ事ちとへ

もいろ〳〵ものとそうせなんとあるきいのゆき
ゆしつけてゆきをとりあつまりもしのてゆくれ
のはあつひさあめ〳〵なり清あつりハ冊者よりわるあ
まるようをとりひつ酒けうあるそうて拾りこあるま
もさけはらなありたいのうゝ姫君をたをとり
ときいのあやうしきとるもゝにあるゝを拾さ
しくめてさつはるゝなとれいのめあわるあつ
らしけなけれいその日ハるりさつよりのめし
てなやあるゝまひあそひて去あゝあつゝら
まけうあり清雪のきしたハあるゝきまゝたな

をいろめしれはこそうたゝをものきこより寂
そうてきてまつめの
なをとるくゝこゝやそふまたとるつゝの
たけのるゝしけるけうくまを
けるちようけていまもすまんよたのりしき
ひすくゝなることゝ小のるもいそちようこゝを
いうちつゝきゆかゝこれハ首うそれとな
ましせのあやめのゝのき清のゝやうなちゝき称
をうけていまひ竹うゝ所あもしめてあゝれを
くうとのなとあてゝきけまるあり山つ

へつるもしらぬとて
このつるをとりてゆうもしれちよの板
うちとりてとりてこうん[illegible]
うしのくるの氏のをきなを七十ちうのものよ
ま[illegible]とりて中[illegible]さきのこ[illegible]君のいそ
ちの山をこえ小のくさとり[illegible]をせられきこえ
まくれまくちりの山ん[illegible]ちりくるいとわ
くれある山こちくちりいのりをとを世ちも
はれたあもいとあまくこ西作つけうち吉原君よ
ハ[illegible]きのとをたうひのくるてれいり

いつのくちりの山ん十一日よ[illegible]貴つる將軍
宣下の宣下のとそ國のたくひあきま
くの毎り中ん佐渡のきこもきりあこちくこ
いさこの山員をちあくあるの松してに渡してこ
山ちの日をとちけ[illegible]る山原きこ宮原きこを
その日つとまりのの中ひまりつちり
物ちけをとすこちくはのいとちこちり
こちくこの山くこ和てはくろひとつけてちり
あけまこ山をこりのちとあのうちちつこき
所あこのこちのまこ新君食安のきこきを

とをこゝにかくなるこゝろのきゝ例のまゝうて
行ともいつゝのしうの御のまゝ元ゆり寄屋をすゝ
まりぬ廿八日のよ八れのゝのさゝ母のてゝをまう
のゆりのてきゝハすゝのあとゝまゝりの
ひぬ祥うちとてゝくしもゝしゆゝ元ゆゝをを
越前ゝ論房のきゝいてきてゝみのきゝきゝ
ゝゝゝとゝなゝゝれたるまゝひなとうゝを
よの行まゝにまゝやう祥てゝり祥ひゝ中ゝを行ゝ
ゝをいまハうゝて出ゝゝもあゝゝきゝ行ゝるを
ゝゝあゝもゝたゝりゝハようきゝゝてゝそはあゝす

けれゝん月の三日いとゝようきゝ日ゝりさゝしなとて
やゝあゝん使をゝて行ゝあゝをゝとゝゝその祥をせゝれ
いゝゝゝ

くるまくちまいれる人〳〵まさいくるまくつきてうり
まうる人〳〵をとの酒れをとつて武をめれいさん
こちらさふはらしこまりをるとやゆくすつて
そうもちて南〳〵のをとをいうれとまいせ作つ行
給屋のきこまく美君の月日をとつてれひき
ちのやうにはよまいりて酒しあをとをて作す
作りつれをとひてちをれやうてれまつてまいり
のみまれよれいのちつ〳〵日ところれ酒つらを
さをとのこまをすをつるこまく〳〵をとゆ今
はくてつくとくしをてまつんもけす君をあく

ゆのはたらつ屋〳〵をあんさゆく〳〵つくれいゆけ
しきの母といとうく〳〵をとゆをせ行〳〵
御をを心をく〳〵の母とことまりてしつをつてをん
はきの代をも大くをあつのゆゆをあまし
ほといをこまくふく〳〵つきよをれいけまをくう
まいりてをまくをを世をいをすまくらをんといあも
いんはるはこれをりもいまをはくまひきことゆつき
まあまをいまをををすてんのまをに守をや
をくしていはちのをものるをはよりのををはんを
をくるきをといををはるふ作をををりこまり

あまりたびかさなりてわらきこえたいめんをもらせるものそまりて[illegible]ぬるあくして作法きこえたりしめ
をくよめしありて三日とりてよつとひまのうちあるまきこ
ハれいのうちくとりまいりののてゆ体ゆるよ海し
のものゆまちうくてはきくも教住の神うへあり
うれとうとひるとしまさはうとてのすれいな
を考ましもこそそうあゆのつれはれとやまひをも
てはきのゆ代すも大わのまうりてをたるゆうし
ゆまりしこうしこうしこうたれいまさうた
みを申なるたのようとうてようきこそよなんあ

ハうもかくも神うひよ海をてたんうれいはり
みをやもくなりていのちあうくらんゆうれはりあ
あはりくハあゆつうあうくひまりてあとはくれと
神んとうのこまもたに又くふハとあく侍後ゆ
つうくきたり刑部の神武部少輔こあうもに神うに
のとくヨひはうくとくいとありうくし
こまりゆあうといくあうくうくもむ義ゆたち
はうと執政のくくあうくうよなもむ義ゆたち
はまるよ命をつうくりこあくをうけつきうく
をはうち解をむてあひさうあうと有まりと

いつもをの〳〵ゆとりてくらちなく文君うち
つれつゝ論語のきゝよつゝけてあまたゝびそゝ
とまりゆかゝ御ゆうつゝのゝ語りをとも
これつゝきゝとの事よ仕すゝちくつゝよまつり
語をんるをとまりゝ語てゝそひきつゝけてま
うんてのつけよかるに仕てゝとまるいゝゝ仕
をんゝたにらゝゝ笑ゆゝうけ仕ゝきゝ
うしこゝゝりゆにありきゝ語てゝうちあつゝ
ちりこれゝもまゝ仕をゝりありてつゝひていと
ゆきたゝゝしゝうんゆ十二日よいとゝこのかし

こゝゝうゝ元ゆきゝてゝ仕ゝゆゝまるゝ
くゝまゝりゝの御所例の仕てゝとまりゝて
やゝて仕あるつゝて又君ハ毒のゝてまつり語
つりかゝゝまゝゝ仕ゝゝこれも仕のゝゝ
つゝゝ語をうつゝきゝゝとゝあゝ入ゆ
のゝあゝゝ語をゝあゝまゝのゝ毎ゝゝゝてま
いつゝ語の侍従のきゝゝ仕ゝてまゝれのれ
仕ゆゝうゝてゝし二ゝとまりゝ五ゝ日七人語を
これゝうゝゆゝのきゝまゝれゝゝをゝある
ゝゝりゝりゝゝゝくゝゝ左ゝ仕ゝけて語し

[illegible]
[illegible]
[illegible]

みなくうんやしにしたがひてをちかのすそ
三百人ばかりまゐりけり行幸のきこしめす
所にたちかへりぬ　ところをたづねん
まゐりたりけるにつかはしてつかはしける
あやしくもあるかな世をのがれいまはてはそんとおも
ひてものをうちたまへるまことにあはれなる
のりのみちにこそあるなれとよみ侍りけれど
ようあるものなりけりひとりねもまこと
にてきてたれそすてあてはてしらしる
家人にあらはしてこの歌ぬうてその月十八日

弱四山里にこもりゐのこもうつりのあ
ぬはらさしあるあるとこあれひしようつりうもの
りぬるとこ　月のうちひろひうて
まゐりもせずあるこんはしかくはて
月末にこもりきこもりゐ入給ふ

月花

春秋の名者よつけてもをのうちまゐ
にんとやつくうつりゆく月日も去ぬ
はるはまりきの作のひとあるねす

なりさはすこうなれたいこうしうよりとかも
ひしこうこうはまいのこうをたれといこうこうはん
しもあり如来と世のこうきめ天人ぬあこうは
すこうはやうんもつこうまうはたらぬんのんはま
しもみんつちの紙いこうのこうこうひきつこうて
こうまうきこうはけうと松のもこう松のこう
いこうこうことこうもをのこうもこうはたうんた
つこうもきのこうこうをいまこうはたうんこうんあこうも
をひつこうねもこうまはおこうをもこうあてあこうこうはひ
のこうこうもこうとこあてをきてたれこうを松いこうひ

ろこうこうはりつこうけてこあこうこうはたこうゆきこうよ
いこうこういこうみやひこうはたこうのこうこうあこうこうんゆき
たこうはまこうはこう六義こうはこうこうへこうねのこうこうふ
つこうきこうこうこうこうのこうこうはひこうこうみやこうはたこうこうあこうと
いこうこうこうれこうはこうこうこうこうこうこうこうこうみちあま
こうこうこうたこうこうこうこうこうこうこうこう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

るくとうけ入てたをまいてあつらふ
あつらへつれくたりけむたりゆのてりこま
やうとてむうくまの事くろくいてつかわて
ひのあてをりあまたけてつきとあること
をすくよをうりんあてくしのりにいつそも
くりきたるあくて者たくまとハいてやよ
のたうのをありもつとれ作るけをとうを
まはるのてらまをのつうもくあも
こてりぬつけまひとうくあうのたくひり
ゆるはれをうくあり作るくなとひとはた
いめんのをりくハのくまたくたまたうて
またう保まるくあとハまつはあるとりな
をゆありはまをうくあて者ぬき町よのりり
ふひくこうあ事けてのくまたくまちてくあた
たうあくもいとあくよまあのつあうけるて
事とよあてひあまはけるハてくこうのあつる
さもつりたんあうをけうけるあるとあくこを
うあくはけありてああすくくこのはを
あてのまをまひいてつくこうつきのうくこまりあと
ふうくくくちはけりよひあうぬてと者お

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のむしけれきをしゆるしてゆるしたまへ
はるかなるかなと仰せられけるあるしの
ものこそ
そのむしけのつるをとりのべて
まことにはしめてひとこゑむ時をうつして
わけもとちきるよもきしのやと
まさしくれのそしまう中院大納言ふりまへ
るにまこのことろよはけうりてあり
あちこちあれはるの度のそしすゆひよりして
こやことはまこそあれとちきりの山家院
はるれといとれのしてこのすゆひてそうまま

しけれ
ことしけきき世をはるかにて都うち
ゆとしのをあれとしあき
ちとあをうきうあきゆくまをうけ堂の
西門とうこそはすゆつりはりるむと
うちなたるたまの川のたりのをうけていとこ
ところれのしはやうちるやとるれうう
つりなりたりてこうてうもうけこうてたる
よまこ大納言ことのの
ゆまうもあうしなりぬたる名を西川を

せきいれてこんる庭のゆりこの
枝れとゝよりしてゆゆしくうとゝされ道をつけても
たゆくうとゝすゆのしるゆあもひろれを
ゆゝしくなられたいゆんをあうすれめゝのひけん
うしみゝてたりゆくまゝに本をまのけしきき
まゝあくあまれたりあゝしゝのていりこれ
ハゆゝしゝはれゆくおしのゆもれあゝ仙
とりてそよきあれたゝるをゝもゆほりを
のゝちゝ為ゝ和よもれいゝほゝまゝいゝことと
ゝまゝていゝけまゝはゝとゝうちゝ今ゝるゝ下れゝよれ

ちやすけゝよやゝそまゝさすゝつきたゝるさゆゝて
ゝあゝゝゆゝる滝酩よゝゝちゝれゝゝん山きゝゆれ
ゆゝゝ新玉れゝゝのゆゝゝふゝゝをゝゝれの本の
ま神ゆりたゝるはまいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ本
ゝるゝき松のゝものれゝはゝれたゝて重れの嬢ゝ夢ゝ
ひゝゝゝされたゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝる本の葉のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆきゝれたゝるゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝまゝゝはゝゝられゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりゆくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うきあしたはあるんあるこの本法よい
てをもちもそらくなる程なくつもりそさして
いめそもたるうしとはむけなるうあつきそもあ
もれあるしもたしらといのへつきのと
くくうそあしもきるつていとむつけ
きをさいかくしぬうとけてゆくはまいとるれ
たりをのはたくいかるりいくるよあ
さしのあすへおくしきほとつりたるとと
ろあれたるよはするよははのけちあはを
くりけとうれたるはのたくけくとなす

ゆりをけるをのをとをのそはけてつくとつ
けたくんさあたるたをあれうくとあゆ
ゆとくそあをもなくうるれつくしをのみを
りあひくくら

はりのもきて日をあるまくをのをとを
ありへたくるる庵はくしあき
うきくもるなくるをくるはくそゆつく
よのはやくよくるたくのりそやされたるあを
けよそくるはむきまそああしるけのを
うけたるあうれををるんけはくそはれい無ふ

[illegible]てゆきいそぐとれらしうぶひあ
りあるまにすてたるあちとよつもたるも
たゝし年のくれにしきれたしきまさ行のゝとたゝ
そしもあるしつるたゝと春のまもしあハれるたち
もあるへつるえまつるとのゝたれハ行るすと
いそくらけしきもとうとおもをとたたて
とるもくたはとろはとこそてとあまよりのしるあ
いそたしにたをあるまゆるしるしるしるしるしる
まつわうあたとこそるたるこてたるしつし
松の雪たるきこあえるあまてあるとたたて

あきりなりくなとわうきくそいとこそち
よいはてたりてりゆきるのくきもつうようき
秋の梅しあるこうけよ嘆のてつもうせゆる
くうちうまつるまていまんくあ嘆覚ち
そそふしるこうたけれてをのふるもも
あるくあきれくあきてうつろふこそのとや
うにおるしけれ池そうもけ庵のこちもく
をうつちとうれくるすむ人仏のひるり四の
うふるこへ松原れちつきしつえくあるる
あるいそしろくよるとうたらうと嘆

ゆくけしきはるかに霞たる海の面あきて世
にしらぬさまいとゝ高くなり朝日のてらはさ
しおろしの霞ゝ山をたゝくしきりにやゝ
いろそへゆくほどゝ一本二本咲たる花
のこゝろとくこゝろもちけるようちか
ほりておくあるべの切畑しらくん
つゝ芳野ゝとゝ雲ふかきゝ本
すゝ高きもの日うゝけれ咲そめと竹の花
亭はあるいとゝ竹の花
宰相のたまりすゝきとれ

ゝるこゝろ夕のとゝ夕新あるべ花曲て
ゝゝゝゝり

庭ひろくうゝる日うけも多くて
けるゝ式部をあゝりてゝゝゝゝ新のゆゝゝれ
きゝ咲たるゝのやまたゝしまく
のゝゝもちゝけて新中ゆくゝ稀の花
ゝの日おあたゝゝさゝゝゝこゝゝれ
めゝゝゝゝゝゆゝりゝゝゝゝゝこの
本のまはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しくりてたゝやけるひとびとあとゆき
はてゝ[illegible]ことあり〳〵ありしは山住
よつきそひまいりしといとわゆゝしけれ
をのゝまゝこゝろとゆりてあそびのゝしり
さゆいとれゝし巻もをふれこれをの
ゝ酒のこゝろもあるひさゝかゝるものぬ
つゝみきしてひしあく野山をとあんゆ
ゝしくもちりてないまし和しとけるこゝき
あるゝとおもをたれゝ人をとゝ色をそゝりて
ちをいたゝめてゆゝこゝひよりつゝけまゝの

方をあるあそびをしてゆゝうたひあの
ものこゝろとして何事なんゝらうちふり
大聲をさゝあけてゝゆしたそゝもれとら
まし[illegible]ゝうゝ[illegible]ゝ[illegible]れとたち出て
うけてこゝろもとたゝりあるところよ
ハゝりよたりかちとこゝろゝよりもむ
まこゝくゝうゝ[illegible]ちきゝ何ものんいゝく
あゝ[illegible]ゝ[illegible]ひすてゆゝけあれすて
ちゝ[illegible]ものゝ[illegible]ゝ者ゝある
ものゝよゝあゝ[illegible]れたゝもいゝちれてれゝ

しゝたゝ春の日ゝ次ハあまたゝびもとりわき
てのゝやうちり春の清らゝのゆゝ
枝ゝ　さゝ風ゝ
こゝろよ
ちゝ
ゝ
ゝ

ゑ〳〵ハこのこゝろをぞとたのむ山里の
こゝろをとゝまるをすゝりの松もゝき
ちとよまるをすゝりの松林のれくゝよ侍けん仏人
のゝきたくゝてんハいとあまりもものれたりこれ
仏のさけのかとゝいとまりれてもれをひさし
と功なり名をけのかてをのりゝまりてれ
つゝれすれい之ゝ月前のあそれ物ゝそも
ゝゝまゝこゝもりとゝすゝまりる山水のた
りすゝ物ゝ仏ゝ物ゝりの山ゝそ
ゝゝあきぬゝのとゝやゝたゝまゝ者ゝ海ゝん

れゝのゝけるむゝゝいゝゝゝ

ちん日まれけるちかつうきの庵のはるゝぬ
もしほの海さこのちくうひそうしひろつま
しけれいすとちりも又うつるれぬあしはひ
うりとなれいをのつくうくれなきてはるなな
むそ千代すとたのむ松の末葉よりきあつむる
とのをふかりすなどれくちちうきをはてれ
もんとあつきつくんほといとたのりうをき
てもあしうしうしをのくれゆくこうをを文
れうしけれ藤の里弱とをたのきしなるとはゆ
しゝ山あをきあとの浦うるくれてゆく春とも

なくはるゆきに名あるくこれぬるきしはるく
あとちうきをうをれていとしつやうなり
こをうの花のふさいとあるくてやあるこし
ようゆちたるあとこをはるくあをきをうに
ひんゆきしてはるのちりなんはるまちうはるを
くはたるの花のちんとあるまくはきくたれてた
つとゆすきはるあるぬをあるすあるくきゆ
くあうるをしけつとゆくこうれあしたゝて
ちとの花をとすれをうくうちあるうちを藤たる
うをうんをの名はあさうくをうちくをうる

うしひろくさいてとりたる日陰し
芝生のいとあをやかなるに雨のこと
にあるをそひたる所のくさ花のときよりぬへ
しわかくのうさちりまつふてあとまるしてそ
後代の相とこそやすくれていてるや
うにそひたるをうきとちりとハあらしう
めうけてゆきてのほんとすられつられ
たる板あちこちわくていてこしぬまを
しわその所後代のこうけ松をこえあら
すけんめうるとよくけんゆきあけよ

そ花りちくこんあうまを物もいとな
うしりきて松あてあちこちたりも毎ちこ
そまきこ地とゆくうちめりてまこしぬ
紀のうみのありけうてたとあゆいこ
たきこのもりつきてこんれをかの松いとよく
こゆはあたりのこちこともとり
かすとのんゆして知日るの指いてれ
たるにすものこと日海こをしうこ見こ作る
物しけこるうあるつくもぬたともさ
ろくあうりさこれの日うすぬるころを

ものむつかしけれと郭公なとはすゑの山の
うちにありてあさ夕ゆかしもうとをすきさりし
ゝなは月ばかりにあつきひるまをしてゆゆし
けなるかとをもゆかはかりをのゝしる夜
をもてゆくに月はいとすゝしう雲なきさ
こちもとあけはなたれたるに岩根にし
らたまをしてたちたるをのかはらに石な
ともをかりのきにうつくしきあやしき草
をかるいとしらしたるをいとあまをを
をしてをんなあるをとてうきねわけをる中にいと

帰かりをうのいつくよりわたりてあちらこちる岩
くしけてあをちりうの海こちはけしひる海の
岩根をこれをとれをれをとりてをりてをられをち
をあるひあるしはしひをしたるををしてハ
しつくもつくしをすをををぬれて
をををちるものをさへをつをきをををつる
をあるしををををををををををををををを
つををををををををををををををの山をををく
日はしをちをあひてをををはををををををを
けをををハきねををきををををををををの

ものむつかしけれと郭公なとはすこし山の
うちにありてあさ夕ゆかしくもうとましきこゑ
なれはいとあつきひるまをしてやゆかし
けなるかとうきをもゆかしかる海
をもてゆくに水鳥なとのゆかしう海
こちもて来れるこゑ共なとはいとすゝしう美なる
うちにこゑなりてちもとの岩根にあたりて
おとをたてゝなきあやしき事
をかるいとうしとあまをを
をもてゆくにあるとてうきねわけをる中にいと

をもしろきのいつくよりわたりてあちこちする岩
くゝけておもちりうの海こちはけしひる海の
若葉をかれをとれをりくゝまりてをれをち
ゆあしひあしはしひをしたるうをそくハ
しつくむつくすをもちぬれて
かをとろちるものをさくろうををれてくろる
をあるし石をにすくきあるぬくまくすれと
つゆもをけるくすうくの山をあてく
日はしうちもあひてをはもむくをとり
けをそうハきねもきるくをけるくをのはら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるばるとあきさきあらしふきそめてすさ
まじきものはこれ石のうへをつたへおちくる
いはほをつたへてゆくかぜ木の下道をそそ
ぐなみだのつゆとなりてあるときはこ
りてふかるるそらの月のひかりひろくてをる
世界をいかばかりかなちしてたれしらぬを
うらやましがるらむ
あめをうけんためしなすべき壺中
天とよ願首なりけりとりかはたるをんな
なれをばしらしひろらふそらうとぬく

なるれたるうたいたんうなるめるる山
おろしに何のあるかは山おもたけそたら
やうなるハ寺や校さしもちらしくえとろあ
る木ことろとてあこれにもかちうたり日き
いろこれりてたつをうんることちはげる何の
うとうとうハおんゆのやこの月をそきこころ
めるしけくこひまうひて木の下まらく
わるきこあきたるはのさろもてなきれて
ほしう何ことはうとうつまりそくむ
つうしきをもつるひきてとめひらちそむ

つゝんでうゑたるあらしけきうゑのうへにはあをくうつきせつゝ大さいつとをゝ咲
つゝきたるさくらなとれあるんのあるら
中よりあと毎てすゝんめるはとちりけし
園の方をよりゝとゝ毎てひろゝる
うちめゝしつゝきたるあゝたゝうち
たゝゝしゝゝのちりあたゝまやあゝのと
そゝるあゝぬれつゝのあきれともけるゝ
にいとよゝあつゝのゝのあをあ唐
けゝとゝきありきてあゝそひとりうめをたゝる

まゝをよとゝいまゝ出のつきたるをむつし
とあるひたるけさひもあるゝ樂園とゝや
いあれい秋のたのゝまゝいとさちたくけゝ
たり秋のそゝろやあゝつきさつまゝよもき
あさちのゝのけゝひはさゝて川きりたを
たゝけあゝりたちけあゝて中絶のわゝりあゝ
とちゝさ岩ほのたゝすゝ見ひまても国とあゝし
あゝゝれあさけすゝさあたゝあ秋よ
そつゝりゝゝあるのゝゝもあけれと色
ゝゝりまゝとゝたゝあゝもわちあつ歩

夕くれの雲ちりあるあはのまをりたるれ
ゝてもてもむきにけるあはのまをとりはすて
さてうらぬれぬとはいまはいとくちり
いろもきものの夕くれのあ
新潟ゝといふの名月はまつたんのあはのあ
うてたてるこの十五夜のこゝろをよめり
新潟ゝはまちうるをきくもなも
あくまうの自性名海の
ひんうしあるてらけていとるきあるれは作るる
月のさやうはしゝ八二千里のかものこゝるまし

うはたるる光よりのあゝむひたれはをを
うけてあはのまをいるはをとあをこゝのつき
まくいとゝしゝあはもまくりれはゆくれる
せをを門をひよ萩いてあはくゝ咲つきて色あ
るはもいとあちゝうりのこをを田畑に屋のれ
ちくををこすてとりあつめたるあをれもいと
ををつれいとあとめうしゝをあるやはるハ雪
雪のたちわるうつるゆくけゝき時のる
よあゝはをはをあうるひきをもとより
をををたるをはこゝろをはこゝるいまをゝをすて

ことゝ事なくあるべくしのよ
のゝぬきて世のうきゆゝしあるべきも
たりひとしけきに月と花とよ
ほつれゝれ折りゝいやまとうゝとを枕てに
しのよいろれのそよう百首あまりよゝ
てゝやとふつゝしつゝ点あもちさをつゝこゝろ
ゝをつり
よゝ行をゝとてあゝ雖後ゝ
んもゝのあまりまゝちり
四段

ゝけあれゝしあまのをゝつよあゝしの
ゝをけきけきあゝたゝみちもまゝはを
まゝある百首のれゝよ中院との
百首のゆゝみまゝゝものたゝよけて
ゝをゝ歌あゝたゝあれゝ
四段

うゝもゝの海をゝとゝをふよゝきゝつて
あゝたゝきゝゝ初ゝゝとゝゝゝ
あゝゝのあゝしきゝ法ゝ

松うけの記

三ノ郎の松うけの記い松平三郎の
和書ありしを文保春なる人ゆへありてこれ
をうつしとるつしのびぬまゝ仮書としきりに
のそむひとありしかゝ三部集をうつして
松ありのびぬこれをうつ中郎のとゝをよ四郎
集をうつしのゝ
まゝこの松うけのきゝて前ゝしるきとゝを
かゝりて文ちゝひとのひるようつしあこんと
こゝろはしのびしら中たゝまてゝのく申の
ゝ世を自あゝふらをひしてゝなし

三月昌孝こゝろをつきうつしたてんまつる書
傳法師を借まゐらせ給たんまを
まちうけ給へうつしめたまを賜はんん
ほとハとの書二部ゝとゝ傳ふ

藤原昌孝

四百九拾壱
慶應義塾

国立公文書館
National Archives of Japan